

地理歴史科（地理総合）学習指導案

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和5年9月 日（ ）
- 3 学級 ホームルーム（ ）名
- 4 使用教科書 『高校生の地理総合』（帝国書院）『新詳高等地図』（帝国書院）
- 5 単元名 気象災害と防災

6 単元（題材）設定の理由

<生徒観>

地理総合の授業では、興味をもちながら取り組み、関心を高めている様子が見られる。これまでの地図と地理情報の利活用についての学習や現代世界の諸課題についての学習においても、ポートフォリオへの記述を通して日頃の学びを日常生活や将来の進路に生かそうとする姿勢が見られた。気象災害や防災についてもこれまでの学習成果を生かし、正しい知識とともに学びに向かう姿勢を高め、自然災害に対する防災や減災という社会問題について自ら追究し、主体的に取り組む力を伸ばしていきたい。

<教材観>

本単元では、外水氾濫や都市型水害、土砂災害など、近年の気象災害について具体的に上げるとともに、地震や火山災害と比較しながら、気象災害がいつどこで起きるか比較的予測できることに気付かせる。また、過去の災害の様子や災害伝承碑の分布から災害の教訓に気付かせることで、生活圏など他の地域における防災や減災に取り組むことの重要性について学習することができる。

<指導観>

日本の自然環境の特徴を踏まえつつ、近年の気象災害の様子について地形図やハザードマップを基にとらえさせる。その際、地理院地図やハザードマップなどの WebGIS を活用し、視覚的に災害の様子を捉える技能を身に付けさせるとともに、読図を通して地域の課題に自ら気づき、主体的に防災や減災に取り組もうとする意欲や態度を高める。

7 単元（題材）の目標

- ・生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。（知識）
- ・様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。（技能）
- ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異などに着目して、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。（思考）
- ・地域の実態に応じた防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する態度を養う。（態度）

【単元の基軸となる問い】

生活圏における洪水や土砂災害の防災や減災のために、どのような対策が必要だろうか。

8 単元（題材）の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異などに着目して、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実態に応じた防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

9 指導と評価の計画 単元名：気象災害と防災 全5時間

- 第1時 日本の自然環境と気象災害・・・【●知】
- 第2時 気象災害と地域の取り組み・・・【●態 ○知】
- 第3時 ハザードマップの読図・・・【●知 ○思】（本時）
- 第4時 新旧地形図の読図・・・【●思】
- 第5時 防災計画を立案しよう・・・【○態】

指導計画（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
【単元の基軸となる問い】					
生活圏における洪水や土砂災害の防災や減災のために、どのような対策が必要だろうか。					
第1時	【本時の問い】日本列島ではなぜ、洪水や土砂災害が起こりやすいのだろうか。				
					(評価資料) ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島をとりまく地形と気候の特徴について、主題図を用いながら洪水や土砂災害との関連について読み取る。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本で洪水や土砂災害が発生しやすい理由について自然環境の特徴と関連付けて理解している。

第 2 時	【本時の問い】過去の洪水や土砂災害の被害からどのようなことが分かるだろうか。			
				(評価資料) グループ発表、小テスト
第 3 時 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 近年の洪水および土砂災害の実態と防災に向けた各地の取り組みについて調べ、発表する。 前時の内容を含めた小テストに取り組む。 	○	●	●洪水や土砂災害の事例から、防災対策の有効性に気づき、防災意識を高めている。 ○日本列島の自然環境の特徴と近年の自然災害の発生状況について理解している。
				(評価資料) MetaMoJi Classroom ワークシート
第 4 時	【本時の問い】生活圏の中で洪水や土砂災害のリスクが高いところはどこだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 「重ねるハザードマップ」を読み取り、生活圏の中から洪水や土砂災害の発生リスクが高い場所について考察し説明する。 	○	●	●「重ねるハザードマップ」の見方や活用方法について理解できている。 ○地形の違いにより、災害の種類や災害の起こりやすさが異なることを説明している。
第 5 時	【本時の問い】洪水や土砂災害の被害を大きくする要因にはどのようなものがあるだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 「今昔マップ」を読み取り、人口分布、過去の土地利用の様子や地形分類、地質から災害リスクについて考察して説明する。 		●	(評価資料) MetaMoJi Classroom ワークシート ●災害の発生リスクが高まる理由についてハザードマップ以外の WebGIS など様々な情報を活用して多面的・多角的に説明している。
第 5 時	【本時の問い】生活圏の防災や減災のために、どのような備えが必要だろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏における防災上の課題を設定し、自然災害への備えや対応について発表する。 		○	(評価資料) ワークシート、発表 ○地域の実態に応じた防災への取り組みについて主体的に追究しようとしている。

10 本時の指導目標

「重ねるハザードマップ」の見方や活用方法について理解できている。(知)

地形の違いにより、災害の種類や災害の起こりやすさが異なることを説明している。(思)

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導 入 5 分	【単元の基軸となる問い】 生活圏における洪水や土砂災害の防災や減災のために、どのような対策が必要だろうか。			
	【本時の問い】生活圏の中で洪水や土砂災害のリスクが高いところはどこだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 「重ねるハザードマップ」にアクセスし、操作方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> サイトへのアクセス方法を説明する。 		

展 開 ① 20 分	・「重なるハザードマップ」で生活圏の「洪水」および「土砂災害」のリスクを表示し、画像データをパワーポイントに貼り付ける。	・画像を保存する方法や範囲の拡大縮小の操作方法を説明し、活用したい情報に合わせて適切に画像を処理する必要があることに気付かせる。	・「重ねるハザードマップ」を操作して、生活圏の災害リスクが表示されている適切な画像データの貼り付けができています。(知)	・パワーポイントへの記入
展 開 ② 20 分	・「洪水」「土砂災害」のリスクが高いところはどうのような場所か文章で説明を加えてパワーポイントに記入し、ペアで発表する。	・凡例を見て「洪水」と「土砂災害」のリスクの違いや、同じ災害でも地形の違いによりリスクの高低があることに気付かせる。	・災害リスクの高い場所について「重ねるハザードマップ」を活用して地形の違いを関連させて説明できている。(思)	・パワーポイントへの記入
ま と め 5 分	・本時の学習内容についてポートフォリオに記入し、自らの学びを振り返る。			

12 評価の目安と目標実現のための手立て

【知識・技能】

A	十分満足できる	「重ねるハザードマップ」を活用し、生活圏の災害リスクについて発生の規模や危険度の高さが分かるように工夫して画像データを作成している。
B	おおむね満足できる	「重ねるハザードマップ」を操作して、生活圏の災害リスクが表示されている適切な画像データの貼り付けができています。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	電子黒板で「重ねるハザードマップ」を示しながら、凡例の見方や画像データの作成方法について説明する。

【思考・判断・表現】

A	十分満足できる	「重ねるハザードマップ」を活用し、洪水と土砂災害の起きやすさの違いや予想される被害の大小について、他地域との比較をしながら説明できている。
B	おおむね満足できる	災害リスクの高い場所について「重ねるハザードマップ」を活用して地形の違いを関連させて説明できている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	基本的な操作方法について電子黒板で示しながら説明し、災害リスクの高い場所について学校周辺の地図を例にして説明する。